

# 畜産みやぎ

発 行 所

仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号  
法 規 宮城県畜産協会  
電話 022-298-8473

編 集 発 行 人

木 村 春 雄

印 刷 所

(株)東北プリント



## 平成19年度宮城県総合畜産共進会 (審査風景)

### も く じ

C O N T E N T S

宮城県の肉用牛増頭方針 ……………2・3	牛乳・乳製品フェア “ミルクファクトリー2007”開催について…………9
肉用牛増頭対策の概要について (肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業) ……………4・5	農林水産祭参加 第47回仙台牛枝肉共進会の開催について ……………9
先生が生徒となって体験学習 =生命・食への架け橋として= ……………6・7	平成19年度宮城県総合畜産共進会 盛会裡に終了…10
<衛生便り> ……………7	実践大学生の抱負 ……………11
<畜試便り> ……………8	養豚農家のみなさんへ ……………11
	New face ……………12

みやぎの  
畜産情報  
発信基地

## 宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>

Eメール [info@mygchiku.or.jp](mailto:info@mygchiku.or.jp)



古紙パルプ配合率100%の再生紙と、  
植物性大豆油インキを使用しています。

# 平成19年度宮城県肉用牛増頭に向けた取り組み

## 宮城県農林水産部畜産課

### 1 背景

本県の肉用牛繁殖経営戸数は年々減少しており、平成19年には平成元年の約4割まで減少しました。規模拡大は少しずつ進んでいるものの、飼養頭数も平成元年と比較すると85%まで減少しており、1戸当たり飼養頭数は平均5.7頭に過ぎません。全国平均8.9頭に比較すると、依然小規模経営が大部分を占める構造であることが伺えます。

平成7年頃までは、枝肉価格が上昇すると子牛価格が連動して上がり、これに対応するかのように繁殖牛飼養頭数が増加する、いわゆるビーフサイクルがありました。

平成14年度以降年々、黒毛和種子牛価格が右肩上がりで、堅調に推移しているも関わらず、繁殖雌牛飼養頭数の減少傾向が、平成17年まで続いていました。繁殖雌牛の増頭に結びつかない要因としては、担い手の高齢化や後継者不足が上げられます。

このような状況から、今後も少頭数規模の高齢者を中心に飼養中止が続くものと見られ、繁殖基盤を維持するためには、担い手の確保及び経営規模の拡大への誘導対策が緊急の課題となっています。

宮城県としては、肉用牛増頭の指標として、平成17年11月に「宮城県酪農・肉用牛生産近代化計画」を策定し、平成27年の繁殖雌牛飼養頭数目標を35,000頭としています。

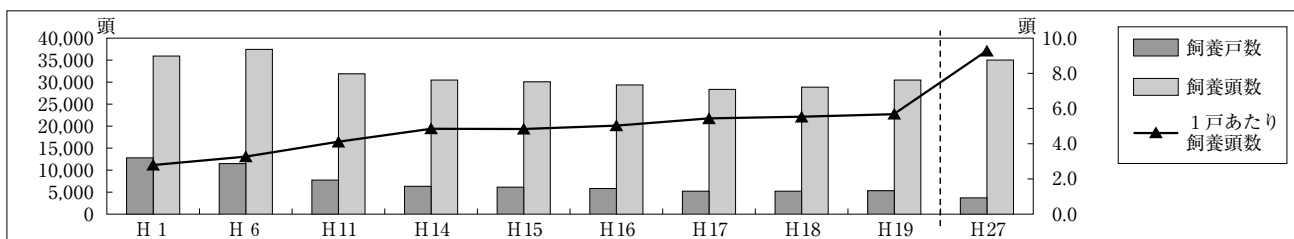
この計画では、基準年の平成16年繁殖雌牛飼養頭数29,400頭を平成27年（10年後）には35,000頭とし、5,600頭の増頭を目指しています。

肉用牛子取り用めす牛飼養戸数・頭数の推移

(戸、頭)

年度	H 1	H 6	H11	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H27
飼養戸数	12,800	11,400	7,780	6,300	6,220	5,840	5,230	5,220	5,350	3,770
飼養頭数	35,900	37,500	32,000	30,600	30,100	29,400	28,400	28,900	30,500	35,000
1戸あたり飼養頭数	2.8	3.3	4.1	4.9	4.8	5.0	5.4	5.5	5.7	9.3

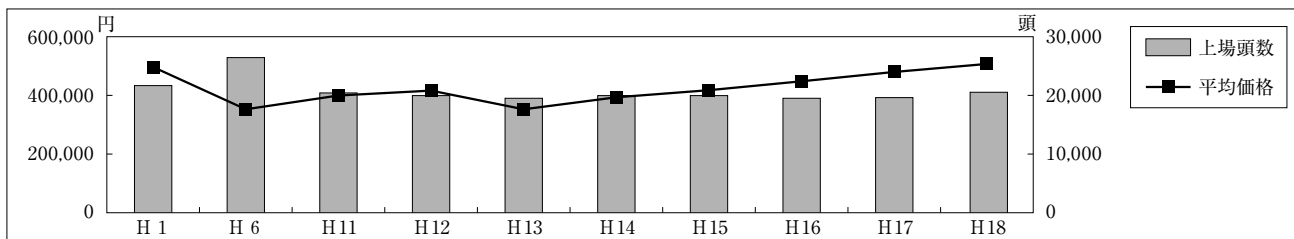
(畜産統計 各年2月1日現在)



肉用子牛価格と市場上場頭数の推移

(単位：頭、円)

年度	H 1	H 6	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
上場頭数	21,592	26,369	20,403	19,897	19,460	19,986	19,887	19,455	19,535	20,360
平均価格	490,095	347,998	394,319	411,361	348,999	389,512	412,295	443,959	475,507	502,164



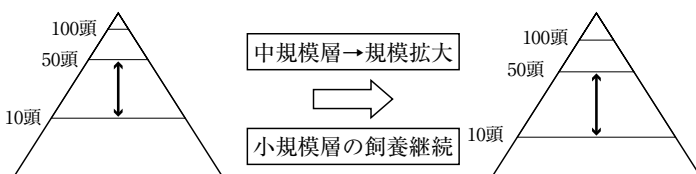
### 2 平成19年度肉用牛増頭への取組体制

#### 1) 現状(平成16年)と目標年(平成27年)の比較

◇10頭から49頭までの中規模繁殖経営階層による、戸数と頭数の増加を計画しています。

◇10頭以下の零細経営に区分される戸数と頭数は高齢化の影響もあり減少が予想されます。この階層の減少部分は、50頭以上の飼養規模の階層が補わなければなりません。零細規模の頭数の減少は最小限に食い止められるように、関係機関の協力が不可欠です。

#### 1) 生産構造の改革 → 繁殖雌牛飼養頭数規模別の構造改革



2) 県域での指導体制と増頭に係る施策体系と支援組織

- ◇宮城県、(社)宮城県畜産協会及び全農宮城県本部は、肉用牛増頭に係る事業の実施団体及び指導機関としてより一層の連携強化が必要です。
- ◇県域及び地域における情報の共有化を図ることが、今後の肉用牛増頭の大きな柱の一つであることから、肉用牛増頭に関する生産現場の声を反映させる機会を持つことが必要です。
- ◇肉用牛増頭に係る支援を実施するに当たり、関係機関の役割と関わり方を明確にし、連携や支援が円滑に行われるような仕組みを構築する必要があります。

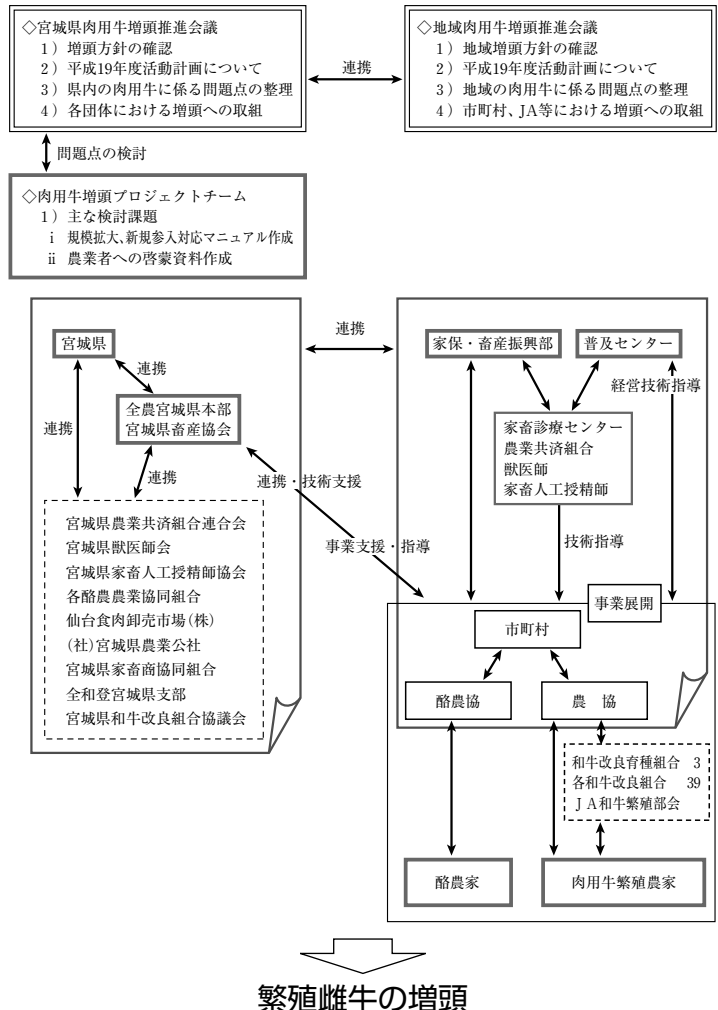
3) 地域での指導体制と増頭に係る施策体系と支援組織

- ◇家畜保健衛生所、栗原・石巻地方振興事務所畜産振興部及び各農業改良普及センターの県出先機関、市町村及び農業協同組合は、肉用牛増頭に係る事業の実施団体及び指導機関としてより一層の連携強化が必要です。
- ◇地域における具体的な取組事例や指導の事例等を参考に、地域での活動計画の立案につなげる活動を行う予定です。

4) 酪農家活用による肉用牛生産振興

- ◇登録可能な和牛の受精卵移植については、「肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業」による支援を活用して和牛子牛の生産拡大を図る取組が開始されています。
- ◇体外受精卵移植による黒毛和種の生産促進及び酪農家所得向上につなげるため、体外受精卵移植を活用した子牛生産とET産子を集めた市場が6月より月1回開催されています。

2) 推進体制



繁殖雌牛の増頭

3 肉用牛増頭に向けた行動計画

平成19年度については、肉用牛増頭のため、県域及び県内各地域においてさまざまな取組を展開していきます。このうち、主なものを掲載しました。この他に、肉用牛改良、経営安定対策、自給飼料増産及び水田放牧の推進をすすめる検討会や実証展示への取組がすでに始まっています。

項目	実施時期	実施内容	対象者
県域肉用牛増頭会議	・ 7月13日 ・ 2月中上旬	・ 活動計画及び実績 ・ 問題点の整理 ・ 情報交換	県畜産関係機関 県域の畜産団体 各酪農協等
地域肉用牛増頭会議	各地域で実施	・ 地域における活動計画及び実績 ・ 問題点の整理 ・ 情報交換	県畜産関係出先公所 市町村・農協 地域の畜産団体 改良組合・育種組合等
肉用牛増頭意見交換会	10月下旬から11月上旬	・ 宮城県和牛改良方針及び肉用牛増頭方針について ・ 宮城県の肉用牛を取り巻く現状 ・ 「宮城の肉用牛改良・増頭を進めるためには」と題した意見交換	平成18年度未開催の下記3地域について優先的に開催を計画 大河原地域 仙台地域 石巻地域 上記の地域以外についても開催を調整中
肉用牛増頭シンポジウム	12月	・ 肉用牛増頭に関する事例紹介 ・ 総合討論会	県内畜産関係団体 肉用牛生産者等
みやぎの和牛を考える放談会	未定	・ 「みやぎの和牛の現状と将来の方向について」意見交換会	県内畜産関係団体 生産者代表等 20名程度

## 肉用牛増頭対策の概要について (肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業)

社団法人 宮城県畜産協会

肉用牛の生産は、地域経済の活性化に重要な役割を果たしてきましたが、小規模・高齢者の離脱により、生産基盤の脆弱化が危惧されるとともに、改良基盤の縮小が大きな問題となっています。

このため、平成19年度から、繁殖農家に加え、酪農家、肥育農家等を“繁殖雌牛増頭の担い手”として位置付け、繁殖雌牛導入対策や繁殖雌牛の増頭に係る器具機材等の導入を中心に、地域の特色ある肉用牛振興対策を行い、肉用牛生産基盤の強化を図ります。

### 本県の繁殖雌牛増頭目標 毎年630頭以上の増頭

本県の繁殖雌牛頭数 30,500頭 (平成19年2月時点)  
(全国レベルで毎年1万頭の増頭が目標)

### 平成19年度内容

#### 計画的な繁殖雌牛の導入を奨励

- 中核的な担い手の繁殖雌牛増頭実績に応じた奨励金の交付 (8万円以内/頭)
- 優良な繁殖雌牛の導入に対する奨励金の交付 (4万円以内/頭)

#### 酪農経営を活用した繁殖雌牛生産を支援

- 登記可能受精卵の移植・受胎に対する奨励金の交付
  - ・性判別 (♀卵) 4万円以内/頭
  - ・無判別卵 1万円以内/頭
- 登記可能受精卵による雌子牛の生産・登記に対する奨励金の交付 (2.5万円/頭)

#### 離農農家からの繁殖雌牛の継承を推進

- 離農農家から繁殖雌牛を継承する場合の購入費を補助  
(1/2以内・上限15万円以内/頭)

#### 増頭に資する器具機材の整備を補助

- 増頭に資する簡易施設の整備、器具機材に対する補助 (1/2以内)
  - ※簡易施設は2万円/m<sup>2</sup>以内・1頭当たりの面積13m<sup>2</sup>以内
  - ※建築確認の必要がなく、固定資産税の課税対象とならないもの

#### 遊休農地等を活用した放牧の推進

- 遊休農地等を活用した放牧推進・実施に対する補助 (1/2以内)  
(電気牧柵等の整備費・放牧経験・牛の輸送費)

#### 高齢地域等実状に応じた生産活動の推進

- 肉用牛ヘルパー活動の推進 (1/2以内)

※事業への取り組みは、農協等の組織又は3戸以上の生産者で組織された肉用牛生産集団で行うことが必須となります。

## 「計画的な繁殖雌牛の導入を奨励」の詳細説明

○中核的な担い手の繁殖雌牛増頭実績に応じた奨励金の交付（8万円以内／頭）

事業名 『中核的担い手育成増頭推進』

### ①参加要件

- ・子牛補給金制度の契約者であること。
- ・昨年繁殖雌牛を増頭・維持した方、新しく肉用牛繁殖経営を開始する方。
- ・増頭計画書や繁殖雌牛台帳の提出が必要になります。

### ②期首及び期末頭数

- ・昨年度もこの事業に参加した方は1月1日、その他の方は7月1日時点の頭数が期首頭数となります。
- ・期首頭数から今年の12月31日までの増頭実績に応じて奨励金が交付されます。
- ※各基準日時点で満12ヶ月齢以上の雌牛をカウントします。

### ③奨励金交付金額

- 1頭あたり8万円（1経営で1ヶ年50頭分を上限）
- ※ただし12月31日時点で15頭以上になっていないと奨励金は交付されません。

### ④事業の対象除外牛

国の事業で導入した牛及び導入時点で72ヶ月齢以上の牛は対象外となります。

※年度により期首・期末や奨励金単価が変更される場合があります。

## 事業取り組み例

	平成18年 1月1日	平成18年 12月31日	平成19年 7月1日	平成19年 12月31日	交付対象頭数
A農場 (昨年参加)	14頭	17頭	—	19頭	2頭
B農場 (昨年参加)	30頭	35頭	—	40頭	5頭
C農場 (昨年参加)	0頭	10頭	—	20頭	10頭
D農場 (昨年不参加)	43頭	43頭	45頭	46頭	1頭

お問い合わせは、経営支援課へ

TEL：022-298-8473

FAX：022-292-5395

# 先生が生徒となって体験学習 ＝生命・食への掛け橋として＝

社団法人 宮城県畜産協会

宮城県畜産協会では、「宮城県畜産ふれあい体験交流推進事業」の一環として、去る8月20日(月)、仙台市泉区の「ハッピーファーム庄司牧場」を会場に「ふれあい体験交流会」を開催しました。今回は、仙台市内の小学校教諭(仙小教研生活科・総合的な学習部会員)の方々を対象としましたが、そのうち17名の参加があり、庄司牧場及び仙台市教育委員会には特段のご協力をいただきました。



中央 庄司さん(酪農) 中央左 佐瀬さん(肉用牛肥育)  
中央右 佐久間さん(酪農)

総合的な学習などの「ゆとり教育」をはじめ、子供たちには畜産業の果す役割や畜産の持ち合わせる側面的な教育部分も学習して欲しいと願っております。その前提としては、先ずもって先生方が身をもって体験していただくことも必要と感じました。

開催当日は、前日の雨も上がり好天に恵まれ、「バター作り」から「給餌・子牛の哺乳」そして「搾乳」体験を次々に行いました。

先生が持参したペットボトルに生乳を半分程度注ぎ、バター作りがはじまりました。子供のように一所懸命シェイクしながら牛舎に入り、繫留されている牛の大きさに驚いた様子でしたが、牛の愛らしい眼に吸い寄せられるかのようにエサを与えていました。

子牛の哺乳体験は代表者2名が行い、子牛が勢いよく吸い込む顔を見て一様に笑顔が溢れていました。次に、搾乳体験は保定枠に入った乳牛を両サイドから行いました。庄司さんから手搾りのコツを教えられ、手のひらに搾った生乳が温かいと初めて知った参加者もいたようです。

体験中にも休まず振っていたペットボトルの中には、真っ白な凝固物が浮かんできました。これがバター?と半信半疑で割り箸を器用に使いバターを取り出してクラッカーにのせて賞味しました。「自分で作ったバターは格別に美味しい」「これだけの量しか



先生方の給餌体験

## NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬(盛岡・水沢開催)11・12月 開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
11月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
			水	沢						水	沢						水	沢					水	沢								
12月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
	水	沢								水	沢				水	沢							水	沢							水	沢

※開催期間中の重賞レース

・11月18日(日)第35回 南部駒賞(水沢) ・11月25日(日)第30回 北上川大賞典(水沢) ・12月31日(月)第33回 桐花賞(水沢)



子牛の哺乳体験

出来ないのにビックリした」と感想は様々でした。

その後、同席した生産者からも生乳生産、食肉(牛肉)生産に関するお話をいただき、「命の温もりや作り手の苦労などは学校教育の中でも貴重な教材であり、今後とも有効に活用していきたい」などの意見をいただきました。また、アンケートには「畜産を教育に取り組みたい」「実践してみます」「牛のあたたかい体に触れさせたい」など、児童・生徒に与えられる可能性が身をもって体験していただけたようです。

最後に私たちは、『命』を口にして生きていることや、どんなものにも作り手の『苦労』があることなど、つい忘れてしまいがちになりますが、農畜産物は太陽の恵みを十分に利用した神様がこの世に贈った最高の贈り物である事を、この体験や教育ファームを活用する事で、将来を担う多くの子供達の健全な育成の一助となり、学校の目的に沿った実りある体験学習へ有効に活用いただけるものと確信しています。

これからの予定としては、11月3日(土)に同じく庄司牧場にて、塩竈市立第2小学校PTA120名を対象に搾乳体験やバター作りなどの「ふれあい体験交流会」を、11月29日(木)には一般の消費者等を対象に、多賀城市内にて「畜産加工調理体験教室」を開催します。

(経営支援課)

## 〈衛生便り〉

### 牛のネオスポラ症について

大河原家畜保健衛生所

雌牛の繁殖障害の一つに流産があり、流産は、細菌、真菌、ウイルス、原虫などによる感染性のものと、非感染性の散発性または特発性流産の2つに大別されます。この中で、ネオスポラ原虫の感染により引き起こされるネオスポラ症は、犬を終宿主とする原虫*Neospora caninum*の感染によって起こる異常産を主徴とする疾病であり、各地でその発生が報告されています。日本では、新潟県、岡山県および広島県で初めて報告されており、発生に地域性および季節性はありません。宮城県における最近の発生状況は、2005年に3頭(全国:20頭)、2006年に0頭(全国:18頭)、2007年に入ってから、6月までに1頭(全国:9頭)と報告されています。

主な症状は流産で、流産胎齢は通常3~8ヶ月、平均5.5ヶ月で、母牛には異常産以外に臨床症状は認められませんが、同一家系で何世代にもわたり流産がみられたり、一度感染して流産した牛は、再度流産を起こしやすいと言われていています。他に、ミイラ胎子、死産および新生子牛の神経症状等がみられることもあります。感染経路には経口感染と経胎盤感染があり、主にネオスポラに感染した犬または野生動物(タヌキやキツネなど)の糞便中に感染力を持つオーシストが排泄され、これを飼料とともに摂取して発症します。

予防・治療法は確立されていませんが、主な対策は以下の通りです。①終宿主となる犬や野生動物を牛と接触させない。②流産胎子や死体、胎盤などは、犬や野生動物が摂取する可能性があるため、発見したら早期に処分する等、処理を適切に行う。③ネオスポラ抗体陽性牛の淘汰および抗体陰性牛の導入を行う。

牛のネオスポラ症は届出伝染病で、血液検査により牛群全体の抗体保有率を調べることができますが、確定診断するには、流産胎子および胎盤の病理組織学および免疫組織化学的検査が必要です。原因不明の流産が続く、本症が疑われた際には、流産胎子を冷やした状態で保存し、最寄りの獣医師または家畜保健衛生所へ連絡してください。

(防疫班 佐沢 公子)

## 〈畜試便り〉

## 「バイオディーゼル燃料製造副産物のたい肥発酵促進剤としての活用」

宮城県畜産試験場

今年度から平成21年度までの3カ年で、標記の課題で新たに試験研究に取り組み始めました。

近年、地球温暖化対策や資源循環型社会の構築に向けてバイオディーゼル燃料（BDF）を軽油の代替燃料に使用する取組みが増えています。県内でもBDF製造プラントが次々建設され、石油価格の高騰もあり、一層注目されています。

BDFは廃食用油を原料とし、メタノールを添加し水酸化カリウムを触媒としたアルカリ触媒法によって製造されます。その際にエステル反応によって脂肪酸メチルエステルという軽油に似た性状のものがBDFとして作られます。また、反応の際に副産物としてグリセリンが発生（約2割）しますが、現在は廃棄物として扱われ、リサイクルを含めた処理が課題となっています。

一方畜産農家では、家畜ふんをたい肥化する際、冬期間は外気温が低く、たい肥の発酵温度が上がりにくく、発酵が進みにくい傾向にあります。そこで、BDF製造時に発生する副産物のグリセリンについて、たい肥の発酵促進剤（エネルギー源）としての活用を検討していきます。

下図のような製造過程を経てBDFが製造されますが、副産物として発生するグリセリンのリサイクルが進めば、良質たい肥の生産とBDFの推進に貢献できると思います。





## 牛乳・乳製品フェア “ミルクファクトリー2007” 開催について

宮城県牛乳普及協会



今年の牛乳・乳製品フェアは、カルシウム摂取の啓発普及となる3-A-Day運動(牛乳・ヨーグルト・チーズをどれでも自由に1日3回食生活に取り入れる運動)、及び食育の

必要性と食の「安全・安心」を提唱し、本来の牛乳・乳製品の良さを再認識しながら「おいしく・楽しく飲める」イベントとし、また、例年に引き続き宮城県内の農林水産業及び商工業などの関係団体、並びに地方自治体等の協力を得て県産品の展示即売等を行なう「みやぎまるごとフェスティバル2007」と共同開催し、より効果的なイベントを開催いたします。

イベント内容としてミルクファクトリーステージでは、ステージ上に教室を作り牛乳・乳製品を摂取しながら勉強会的なトークショーを展開します。また、当日イベント会場にお越しいただけない方でも宮城県内コミュニティFM4局「なるほどミルク放送局」から生放送でイベントが楽しめる内容になっています。

子供達が大好きな「おじゃる丸」キャラクターショーも行われ、より多くの子供達にも牛乳の必要性を呼びかけます。

ミルククッキングスクールでは、ミルククッキング料理講習会などの牛乳・乳製品の料理コーナーや、親子での手作りバター体験学習を実施、ふれあいキッズパークでは乳搾り模擬体験コーナー、ふれあい動物園、そしてミルク情報館では、例年好評の骨密度測定も実施し、調理器具の展示・食事バランスガイド解説パネル展示等、牛乳・乳製品の普及コーナーもあり、内容等も盛りだくさんで十分楽しんで満足頂けると思います。

私たちの生活に欠かせない牛乳・乳製品ですが、その製品の種類は多様化し、栄養価が高くおいしいの



はもちろん、より安全で安心な商品が消費者から求められています。牛乳本来の良さを消費者の皆様実感頂ける2日間になると思いますので是非ご来場下さいませよう、ご案内申し上げます。

開催日時 平成19年10月20日(土)、21日(日)  
午前10時～午後4時迄  
開催場所 仙台市「勾当台公園」

(村山 ひろみ)

## 農林水産祭参加 第47回仙台牛枝肉共進会 の開催について

全農 宮城県本部 畜産課

農林水産祭参加第47回仙台牛枝肉共進会を下記の内容にて開催することとなりましたので、多数ご参観くださるようご案内申し上げます。

### 1、会期及び場所

- (1) 会期 平成19年11月4(日)～7日(水)
- (2) 場所 仙台市宮城野区扇町六丁目3番16号  
仙台中央卸売市場食肉市場

### 2、出品区分及び条件

- (1) 肥育の完成されたもので、おおむね(±3%)次のものとする。

部	品 種	区分	条 件
第1部	黒毛和種	去勢	枝肉重量390kg～520kg
第2部	黒毛和種	雌	枝肉重量320kg～450kg

※ただし、瑕疵のある枝肉は審査対象外とする。

- (2) 出品牛は出品者において12ヶ月以上飼養され最長飼養地が県内のものとする。
- (3) 出品牛は血統明確なもので、これを証明する書類(子牛登記書等)を有すること。

### 3、出品頭数及び屠畜・販売日

部	品 種	区分	頭数	屠畜月日	販売月日
第1部	黒毛和種	去勢	150	11月6日	11月7日
第2部	黒毛和種	雌	50	11月5日	11月7日
計			200		

(高川 信幸)



## 平成19年度宮城県総合畜産共進会 盛会裡に終了

## 社団法人 宮城県畜産協会

本会主催による農林水産祭参加平成19年度宮城県総合畜産共進会は、去る8月28日～30日宮城県食肉流通公社で「肉豚の部」を、9月15日みやぎ総合家畜市場において「乳用牛・肉用牛の部」とそれぞれ開催し盛会裡に終了いたしました。開催にあたりご協力賜りました関係者各位には心からお礼申し上げます。

本共進会の目的は、家畜の改良と飼養技術の向上を通じ健全な畜産の振興を期すところであり、今年度の出品もこれらの点を十分理解され地域の代表にふさわしい優れた出品畜でありました。また、消費者との交流を深めるため畜産物等の大即売会、抽選会や機械・器具展示など各種イベントも同時に開催し好評を得ました。なお、各部の名誉賞等受賞者は下記のとおりです。

## 「乳用牛の部」

- ・農林水産大臣賞・知事賞 第6区（4歳未満）  
加美町 高橋 真
- ・農林水産省生産局長賞 第1区（生後12カ月未満）  
栗原市 鈴木 義博
- ・東北農政局長賞 第5区（3歳未満）  
丸森町 半沢 善幸
- ・団体賞 大崎地区

## 「肉用牛の部」

- ・農林水産大臣賞・知事賞 第5区 繁殖雌牛群（経産）  
栗原和牛育種組合  
高橋 時夫・熊谷 強・小野寺英一・菅原 美穂
- ・農林水産省生産局長賞 第2区 若雌の2（生後17カ月以上20カ月未満）  
登米市 大立目敏夫
- ・東北農政局長賞 第4区 父系3頭群（生後14カ月以上20カ月未満）  
栗原和牛育種組合  
阿部 遼・佐藤 勇太・阿部 重雄
- ・団体賞 登米地区

## 「肉豚の部」

- ・農林水産大臣賞・知事賞 第1区 ミヤギノクロス三元交雑種  
登米市 (有)タダキ畜産
- ・農林水産省生産局長賞 第2区 第1区以外の肉豚  
加美町 渡邊 耕並
- ・東北農政局長賞 第1区 ミヤギノクロス三元交雑種  
(有)ピッグ夢ファーム
- ・団体賞 登米地区

(経営支援課)

〈実践大学校生の抱負〉

私の転機

宮城県農業実践大学校畜産学部  
酪農専攻2年 櫻井 章子



正直一番ありえないと思っていた学校に入りました。恥ずかしながら私は、同級生達と違い、高校を卒業するぎりぎりまで家業のことを真剣に考えたことがありませんでした。時々、お手伝いはしていたものの、とりわけ動物が好きになく、酪農の現

状や牛には上前歯がないこととか、飼料袋の開け方も知りませんでした。

家業の経営難を救うことが入学への大きなネックとなり、ほかの人より決断に要した月日は少なかったけれども、同じくらい悩み、自分なりに決意と目標、リスクを考慮して入学したつもりです。しかし、私にとって農業全般が未知の世界であったため、入学した当初は、本当に自分は家業である酪農でがんばっていいのか。一生、牛と向い合っているのか。加えて、自身が当初志望していた進路を諦めきれずにいたりして、戸惑いと不安ばかりが拭いきれなくて残っていました。

しかし、入学してみると一生懸命自分の地域や農業のことに熱意を持って取り組んでいる同級生や農家の皆さんの姿を見て、大変感銘を受けました。就農することや町に残ることに臆病になっていた自分を見直すことができ、なにより牛が大好きになりました。

世間にはたくさんの学問があるけれども、畜産経営ほど生き物と生活が密着し、やりがいのある分野は少ないと思います。先日、家畜人工授精師にも無事合格することができ、生きるということを日々実感しながら勉強できる今がとても充実しています。入学を承諾してくれた両親や、そばにいてだけで眩しいクラスメイトに、莫大な影響を与えてくださった農家さん、支えてきてくださった先生方と畜産試験場の皆さんには感謝してもしきれません。

卒業後は、地元である七ヶ宿町へ戻り就農する予定です。百姓は頭が悪くてはできません。数少ない担い手の一人として、学生時代はたくさん勉強し、ふるさとと我が家の牧場にいち早く還元して、行動と結果を出すことが当面の私の目標です。

養豚農家のみなさんへ

社団法人 宮城県畜産協会

これからの季節、冬から春にかけて発生する伝染病「豚伝染性胃腸炎 (T.G.E: Transmissible Gastro Enteritis)」。

子豚から母豚まで感染し、特に生後10日以内の子豚の死亡率が高く、注意が必要な病気です。

	子 豚	育 成 豚	母 豚
症 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘔吐</li> <li>・激しい下痢</li> <li>・脱水症状による死亡 (生後10日以内の子豚)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発熱 (40℃ぐらい)</li> <li>・食欲不振</li> <li>・激しい下痢</li> <li>※水は飲むが、食欲不振が5～7日間続く。嘔吐する場合もある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩前後に発病することが多い。</li> <li>・母乳が出なくなり子豚はほとんど死亡する。</li> </ul>
感 染 源	感染豚の鼻汁あるいはふん中にあるT.G.Eウイルスが口から感染します。ウイルスで汚染された人、車両等により伝染します。		
予 防 方 法	☆ワクチンの予防接種 ・冬季分娩予定の母豚・育成豚は2回目の接種を分娩予定日の概ね2週間前に実施しましょう。(1回目を11月～12月/2回目を12月～1月) ※2回接種しないと効果はありません。 ・1頭2回接種で1,200円 (1回600円) ☆流行する時期は、人・車両等の出入を制限しましょう。 ☆豚舎、器具、車両等の消毒を実施しましょう。		

※不明な点は獣医師、家畜保健衛生所又は畜産振興部へお尋ね下さい。

家畜衛生課

TEL : 022-298-8472

FAX : 022-293-2311

## 〈New face〉

登米家畜保健衛生所  
防疫班 高橋 昌美

はじめまして、平成19年から登米家畜保健衛生所に勤務しております高橋昌美と申します。出身は宮城県との県境になっている秋田県湯沢市で、3月に北海道にある酪農学園大学を卒業しました。

大学では微生物学教室に所属し、主に動物の免疫状態の解明に関する研究を行っていました。このゼミの研究内容は、子牛における初乳給与時の免疫動態からマウスモデルを用いた抗癌免疫に至るまで、非常に幅広いものでした。

現在は、家畜の伝染病予防・蔓延防止のため、検査技術を始めとして毎日色々なことを勉強させて頂いております。これまで畜産に直接携わるという機会がほとんどなかったため、戸惑うことも多いのですが、充実した日々を送っています。宮城県の地理、また秋田と若干異なる方言については、こちらも現在勉強中です。

この5ヶ月間は、先輩方、また農家の方々に支えられながら、仕事に慣れることができた期間であるものと思っております。これからも1つずつ経験や知識を積み重ねていながら、少しでも農家の方々に還元できるよう、また宮城県の畜産振興のお役に立ていけるよう努力しますので、ご指導の程よろしくお願ひ致します。



## 〈New face〉

宮城県畜産試験場 酪農肉牛部 乳牛チーム  
富樫美紀子

初めまして、平成19年度4月から宮城県畜産試験場に配属になりました富樫美紀子と申します。出身は岩手県盛岡市で大学も地元の岩手大学を卒業しました。現在岩手県を離れ、宮城県の空気と独り暮らしを満喫しています。

大学時代は臨床繁殖研究室に所属し、大学から10kmはなれた所にある付属農場へ繁殖検診のために通っていました。「病気の牛を治すのは-を0にする事だけれど、繁殖は0を1にする仕事だ」という先輩の言葉で繁殖研究室に入ることに決め、ここで大動物を扱っていたことから畜産関係に興味を持つようになりました。

現在は酪農肉牛部の乳牛チームに所属し、牛と触れ合う日々を過ごしております。ここでは、飼養管理から繁殖管理、治療など幅広く牛をみるため、日々勉強の毎日で、実際に現場に出て牛と深く接して、大学の講義や実習で行ったはずのことが応用できずに毎日とまどっていました。配属当初は、具合の悪い牛がいるかどうかとも全く分らず無力に涙する日もありましたが、今は周りの方々の丁寧なご指導のおかげもあって、少しずつですが牛の体調などの見方が分ってきて仕事が楽しくなってきました。

今は目の前にある仕事をこなすだけで一日が過ぎていきます。一人前になるにはまだまだ勉強し、覚えなければならないことが多いと痛感しています。今後もっと畜産分野に関わる知識や技術を身につけて、少しでも宮城県の畜産の発展に貢献でき、お役に立てるようになりたいと思っておりますので、どうぞ今後ともご指導の程よろしくお願ひ致します。